

環境と調和する街の実現に向けた取り組みをさらに推進するため「環境ビジョン2040」を策定
～「なにげない日々が、未来をうごかす」をコンセプトに、環境目標を更新・新設します～

東急株式会社

当社は、環境と調和する街の実現に向けた取り組みをさらに推進するため、2022年3月に策定した「環境ビジョン2030」を改定し、「環境ビジョン2040」を策定しました。「環境ビジョン2040」では、2030年度に向けた従来の達成目標をより高い水準に更新するとともに、2035年度および2040年度に向けた達成目標を新たに設定しました。

「環境ビジョン2030」では、脱炭素・循環型社会の実現に向けて、環境と調和する街のコンセプトとして、「なにげない日々が、未来をうごかす」を掲げ、環境に良い行動が特別な負担感なく選択でき、誰もが持続可能な社会と地域環境の再生に貢献できるまちづくりを目指してきました。

具体的な取り組みとして、東急線では2022年度から、全路線での運行にかかる電力を、日本初の取り組みとしてCO₂排出量が実質ゼロとなる再生可能エネルギー由来100%電力に置き換えました。また、2024年度には、当社所有賃貸不動産の電力※¹を100%※²実質再生可能エネルギー由来の電力へ切り替えました。

今般、従来目標を上回るペースで進捗していることを受け、「環境ビジョン2030」を改定し、「環境ビジョン2040」を策定するものであり、環境目標の更新・新設に加え、「街への取り組み目標」として、3つのモニタリング指標を設定しました。当社が街とともに持続的に成長するため、街の皆さまが地域の環境課題に目を向けるきっかけとなる項目をモニタリング指標とし、街と共に取り組みを進めていきます。

今後も、当社だけでなくあらゆるステークホルダーとのパートナーシップで取り組み、環境に良い行動変容を後押しする機会を提供することで、多くの方に環境貢献を身近に感じていただき、皆さまと共に環境と調和する持続可能なまちづくりを推進していきます。

住みやすく、住み続けられる街、「環境と調和する街」の実現へ



国際/国内基準に照らし合わせ、脱炭素・循環型社会、そしてネイチャーポジティブな社会に向け目標を掲げ取り組んでいます



街の皆さまとの取り組みで、当社だけでは実現できない、広範囲、かつ多くの皆さまに参加していただける取り組みを推進していきます



「環境と調和する街」の実現。そしてそのグッドプラクティスを、海外のまちづくりにも生かし、地球規模での「環境と調和する街」を推進していきます



自社の取り組み目標

■ GHG排出量削減目標（2019年度比）、再エネ比率目標※

	2030年度	2035年度	2040年度	2050年
GHG排出量（スコープ1,2）	55%削減	60%削減	73%削減	実質ゼロ
再エネ比率	60%以上	70%以上	80%以上	100% (RE100)
GHG排出量（スコープ3）	35%削減	45%削減	55%削減	—

■ 廃棄物量・水使用量削減目標（2019年度比 収益原単位）

	2030年度	2035年度	2040年度
廃棄物量・水使用量	20%削減	25%削減	30%削減

※再エネ比率目標の達成に向けては太陽光発電の開発（創エネ）や蓄電池の活用（蓄エネ）など、調達電力内製化も合わせて進める



街への取り組み目標

街とともに持続的に成長するため、街のみなさまが地域の環境へ関心を持つきっかけとなる項目をモニタリング指標とし、皆様とともに取り組みを進めてまいります

美しい時代へ みらいアクション	「美しい時代へ みらいアクション」指標のモニタリングと開示
東急線によるGHG排出削減貢献	東急線による累計GHG排出削減貢献量のモニタリングと開示
『みどろリンク』アクション	・延べ支援団体数のモニタリングと開示 ・参加者数のモニタリングと開示

※1 売却または取り壊し予定物件、ホテル・住宅物件、当社がエネルギー管理権限を有しない一部の物件を除く

※2 テナント専用部を含む建物全体が対象

以上

【別紙】

1. 環境ビジョン2040における目標と従来目標

指標	2030年度 (従来目標)	2030年度 (新目標)	2035年度 (新設目標)	2040年度 (新設目標)	2050年 (変更なし)
GHG排出量 (Scope1,2) ※3 (2019年度比)	46.2%削減	55%削減	60%削減	73%削減	実質ゼロ (カーボンニュートラル)
再エネ比率※4	50%以上	60%以上	70%以上	80%以上	100% (RE100)
GHG排出量 (Scope3) ※3 (2019年度比)	30%削減	35%削減	45%削減	55%削減	-
廃棄物排出量 (収益原単位) (2019年度比)	10%削減	20%削減	25%削減	30%削減	-
水使用量 (収益原単位) (2019年度比)	10%削減	20%削減	25%削減	30%削減	-

※3 環境ビジョン2030ではCO₂排出削減量を目標に設定していたが、環境ビジョン2040からGHG (Greenhouse Gas: 温室効果ガス) 排出削減量に変更して目標を設定した。

※4 再エネ比率目標の達成に向けては太陽光発電の開発(創エネ)や蓄電池の活用(蓄エネ)など、調達電力内製化も合わせて進める。

2. 街への取り組み目標

街と共に持続的に成長するため、街の皆様が地域の環境に関心を持つきっかけとなる項目をモニタリング指標とし、各指標のモニタリングと開示を行いながら、皆さまと共に取り組みを進めていくことを目標とします。

■3つのモニタリング指標

①「美しい時代へ みらいアクション」指標

SDGsのその先のより明るい未来に向け、東急線沿線や事業エリアの皆さまと一緒に取り組むサステナブルアクション「美しい時代へ みらいアクション」を推進します。「なにげない日々が、未来をうごかす」5つのアクションテーマを設定し、情報発信やイベント開催などを行います。5つのアクションテーマのうち、3つ以上のテーマにコミットする人の割合を「美しい時代へ みらいアクション」指標と定めます。

「美しい時代へ みらいアクション」の詳細については、以下URLをご覧ください。

URL: <https://www.tokyu.co.jp/company/news/detail/58986.html>

②東急線による温室効果ガス(GHG) 排出削減貢献量

一般的に鉄道はエネルギー効率が良く、移動にかかるCO₂排出量は、自家用自動車の約7分の1※5です。

東急線は2022年度から、全路線での運行にかかる電力を、日本初の取り組みとしてCO₂排出量が実質ゼロとなる再生可能エネルギー由来100%電力に置き換えました。引き続き、環境にやさしい輸送手段である鉄道の利用促進を図ります。なお、2024年度の東急線によるGHG排出削減貢献量は約127万t-CO₂で、一般家庭の年間CO₂排出量の51万世帯分相当※6です。

※5 国土交通省「輸送量当たりの二酸化炭素の排出量(旅客)2023年度」より

※6 環境省「令和5年度家庭部門のCO₂排出量実態統計調査結果の概要(確報値)」より

③「みど*リンク」アクションの延べ支援団体数及び参加者数※7

「みど*リンク」アクションは、1972年に開始し、40年間で累計22万3千本もの苗木を配布した「東急沿線グリーンングキャンペーン」から進化した活動です。沿線地域の方々のまちづくり活動や緑化活動を当社が支援することで地域コミュニティを活性化させ、沿線の自然・地域環境の維持向上を目指していきます。

※7 参加者数のモニタリングと開示は2026年度から実施予定

3. TNFDレポートの発行

環境と調和する街の実現のため、環境ビジョン2040における脱炭素・循環型社会に向けたアクション11のひとつである「自然共生」に関し、自然関連財務情報開示タスクフォース(TNFD※8)の提言に沿って、事業活動における自然への依存と影響、リスクと機会、それらへの対応策を整理した「TNFDレポート」を本日発行し、WEBサイトおよび統合報告書2025に掲載しました。

※8 The Taskforce on Nature-related Financial Disclosures

WEBサイトURL: <https://tokyu.disclosure.site/ja/204/>

統合報告書URL: https://ir.tokyu.co.jp/ja/ir/library/integrated_report.html

<参考>

■当社のサステナブル経営への取り組み

<https://tokyu.disclosure.site/ja/>

<東急株式会社(連結)が貢献するSDGs (SDGs宣言)>

“美しい生活環境の創造”を目指し、交通をはじめとした生活インフラやサービスと一体となったサステナブルな「まちづくり」に取り組み、事業成長と社会課題解決を両立させ、SDGsに貢献します。



以 上

なにげない日々が、 未来をうごかす

環境ビジョン 2040

ENVIRONMENTAL VISION

2025年9月30日





私たちは創業以来、公共交通の整備を含めた都市開発を通じて、地域と共に「まちづくり」を進めています。街をつくることは自然環境に影響を与えるものですが、いかにその影響を抑えるか、人と街と環境が調和する社会の実現に想いを巡らせて取り組みを続けてまいりました。

2022年、当社では、個社や個人の取り組みだけでなく、当社を支えてくださっているたくさんのステークホルダーの皆さまと一体となって取り組み、暮らしを変化させていく必要があると考え、「**環境ビジョン2030**」を制定いたしました。

「環境ビジョン」制定より3年間、環境と調和する街のモデルを模索しながら、世界の課題解決への貢献にもつなげていくことを目指し、様々な取り組みを実践し、目標を上回るペースで進捗してまいりました。

「**なにげない日々が、未来をうごかす**」というコンセプトのもと、さらに取り組みを加速させるため、「**環境ビジョン2040**」として、この度目標のアップデートを行いました。

すべての人びとには、子どもたちに明るい未来を残していく責任があります。未来は今日の暮らしが積み重なって生まれます。住む・遊ぶ・働くが織りなす日々のなかで、だれもが、持続可能な社会と地域環境の再生に貢献できる「まちづくり」を共にすすめていきましょう。





1	環境への取り組みのDNA	Page 3
2	環境ビジョン2040の位置づけ	Page 4
3	環境への取り組みで目指すもの	Page 5
4	環境と調和する街のコンセプト	Page 6
5	環境と調和する街のイメージ	Page 7
NEW	6 環境ビジョン2040ー「環境と調和する街」の実現へー	Page 8-9
NEW	7 アクション11（脱炭素・循環型社会）	Page 10-13
NEW	8 まちづくりにおける主な取り組み状況	Page 14-19
	# 資料編	Page 20-22



1 環境への取り組みのDNA

- 創業以来、理想的な生活環境の創造に向け、公共交通整備と都市開発を両輪とした「まちづくり」を進めてきました。
- まちづくりにおいて大切にしてきたもの—それは「人と街と環境の調和」であり、地域や社会と共に取り組む、現在のSDGsに通じるサステナブルなまちづくりです。



1918年、当社の源流となる「田園都市株式会社」が渋沢栄一を発起人として誕生。エベネザー・ハワード（英）による**田園都市論**を日本流に取り入れ、**郊外の緑豊かな住宅地から都心へ電車で通勤するスタイル**を世に提示。「人間は、到底自然なしには生活できるものではない」、その想いは引き継がれ、第二次世界大戦後、東京圏の住宅不足と生活環境の改善のため、1953年に**新たな都市構想**を発表し、**多摩田園都市**へとつながっていきます。



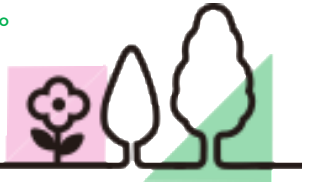
「多摩田園都市」を地域の方々と一緒に緑豊かな街にしていくために、「**街に緑を、そして夢を**」をスローガンに、1972年に第1回緑の苗木プレゼントを開始、40年間で約22万本の苗木を配布しました。その精神は2012年からは、人と人のつながりが緑を広げる『**みど＊リンク**』アクションへと引き継がれ、「まちづくり・緑化」をきっかけとしたコミュニティづくりの支援を、現在も続けています。



1970年代初めごろの多摩川は高度経済成長に伴う急激な人口集中によって、水質汚染が深刻な問題となっていました。1974年に、「財団法人とうきゅう環境浄化財団（現：公益財団法人東急財団）」を設立。同財団は、専門家の学術研究や市民の生活に根差した研究や活動に対し、2024年度までに1,332件の助成を行い、**多摩川的环境保全**に貢献してまいりました。行政や街の皆さまと力を合わせて、現在の多摩川はアユの遡上する姿が見られるまでに水質改善がすすみました。

2 環境ビジョン2040の位置づけ

- グループスローガン「美しい時代へ」のもと、存在理念「美しい生活環境の創造」に向けて、サステナブル経営の方針を掲げ、**まちづくりを通じた社会課題（SDGs等）の解決**に取り組んでいます。
- SDGsの「11：住み続けられるまちづくりを」を事業を通じて達成すべき中核的ゴールとし、その実現に向け「**脱炭素・循環型社会**」に一層取り組むべく、環境ビジョンを策定しました。



グループ スローガン

美しい時代へ—— 東急グループ

存在理念

美しい生活環境を創造し、
調和ある社会と、一人ひとりの幸せを追求する。

サステナブル 経営の方針

「美しい時代へ」というグループスローガンのもと、
サステナブル重要テーマに向き合い、
「未来に向けた美しい生活環境の創造」および
「事業を通じた継続的な社会課題の解決」に取り組む。

サステナブル重要テーマ（マテリアリティ）：「安全・安心」「まちづくり」「生活環境品質」「ひとづくり」
「脱炭素・循環型社会」「企業統治・コンプライアンス」

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

脱炭素・循環型社会



- 住み続けられるまちづくりの実践として、環境と調和する街の実現に取り組むことで、街と共に持続的な成長をすすめます。
- また、既存の市街地における取り組みのグッドプラクティスを目指し、世界の課題解決に貢献してまいります。



環境と調和する街の実現

住み続けられるまちづくりの実践として
脱炭素・循環型社会に向けた
「環境と調和する街」の実現に取り組み、
街と共に持続的に成長する



世界の課題解決への貢献

既存の市街地が、地球環境と共存する都市へと
進化するグッドプラクティスとなり、
世界の課題解決に貢献する





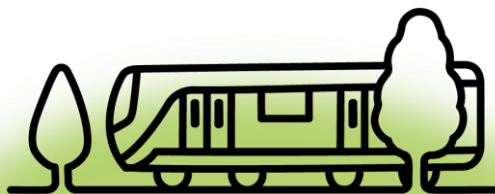
コンセプト

なにげない日々が、未来をうごかす



過去・現在・未来は連なり、
未来は今日の暮らしが
積み重なって生まれる。

想い



環境に良い行動を
特別な負担感なく選択できる日常が、
すべての人にあることを目指したい。

わたしたちの行動や
街の存在が、未来を期待に
満ちたものへとうごかす。





なにげない日々が、未来をうごかす

日々の生活シーン

移動する



- CO₂フリーな移動
- 効率的・シームレスな移動
- 環境配慮駅を拠点とした資源循環

暮らす遊ぶ



- 手軽なエコ・エシカル生活
- 創エネ・低環境負荷住宅
- エコ・スマートコミュニティ
- 自然環境保全・教育

働く



- 環境配慮型オフィス
- オープンイノベーション

日々の支え



- デジタルテクノロジー
- 自然災害への備え・対応
- エネルギーレジリエンス



実現のポイント

1

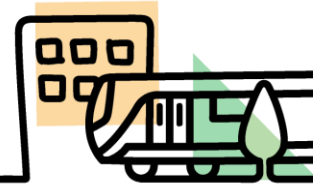
チャレンジ目標を掲げる

2

あらゆるステークホルダーとの
パートナーシップ
で取り組む

3

環境に良い**行動変容**を
後押しする**サービス**を
提供する



住みやすく、住み続けられる街、「環境と調和する街」の実現へ



国際/国内基準に照らし合わせ、脱炭素・循環型社会、そしてネイチャーポジティブな社会に向け目標を掲げ取り組んでいきます



街の皆様との取り組みで当社だけでは実現できない、広範囲、かつ多くの皆様に参加していただける取り組みを推進していきます



「環境と調和する街」の実現、そしてそのグッドプラクティスを海外のまちづくりにも生かし、地球規模での「環境と調和する街」を推進していきます



自社の取り組み目標

■ GHG排出量削減目標（2019年度比）、再エネ比率目標※

	2030年度	2035年度	2040年度	2050年
GHG排出量（スコープ1,2）	55%削減	60%削減	73%削減	実質ゼロ
再エネ比率	60%以上	70%以上	80%以上	100% (RE100)
GHG排出量（スコープ3）	35%削減	45%削減	55%削減	—

■ 廃棄物量・水使用量削減目標（2019年度比 収益原単位）

	2030年度	2035年度	2040年度
廃棄物量・水使用量	20%削減	25%削減	30%削減



街への取り組み目標

街とともに持続的に成長するため、街のみなさまが地域の環境へ関心を持つきっかけとなる項目をモニタリング指標とし、皆様とともに取り組みを進めてまいります

美しい時代へ みらいアクション	「美しい時代へ みらいアクション」指標のモニタリングと開示
東急線によるGHG排出削減貢献	東急線による累計 GHG 排出削減貢献量のモニタリングと開示
『みど*リンク』アクション	・延べ支援団体数のモニタリングと開示 ・参加者数のモニタリングと開示



街への取り組み目標

美しい時代へ みらいアクション※1

SDGsのその先のより明るい未来に向け、東急線沿線や事業エリアの皆さまと一緒にサステナブルアクションを推進します。
なげない日々が、未来をうごかす5つのアクションテーマを設定し、情報発信、イベント開催などを進めます。



・「美しい時代へ
みらいアクション」指標※2
のモニタリングと開示



5つのアクションテーマは、専門家の監修のもと、2030年のその先のビジョンSDGsも見据え、誰もが特別な負担感なく取り組める具体的なアクションを設定いたします。

東急線によるGHG排出削減貢献

一般的に鉄道はエネルギー効率がが高く、移動にかかるCO₂排出量は、自家用車の約7分の1にとどまります。※3
東急線は2022年度より、**全路線再生可能エネルギー由来の電力100%運行**を開始し、実質CO₂排出ゼロでの運行を継続しています。環境にやさしい移動輸送手段である鉄道を選んでいただけるよう、モーダルシフトの促進を図ります。



・東急線による累計
GHG排出削減貢献量の
モニタリングと開示



モーダルシフトの促進に向けて、すべてのお客さまが電車で安心して楽しく移動できるよう、安全安定輸送をはじめとして、駅や車内環境の快適性向上のほか、わかりやすい情報提供、お得で便利なサービスの充実などに取り組んでいます。

『みど*リンク』アクション

1972年に開始し、40年間で累計22万3千本もの苗木を配布した「**東急沿線グリーンングキャンペーン**」から進化した活動です。沿線地域の方々のまちづくり活動や緑化活動を当社が支援することで地域コミュニティを活性化させ、沿線の自然・地域環境の維持向上を目指していきます。



・延べ支援団体数の
モニタリングと開示
・参加者数の
モニタリングと開示※4



「スパイスアップ SOZAI循環Lab」※5
竹林の新たな活用方法に挑み、竹炭の作成・活用にて土壌改良に役立て、更に、竹材製品の作成、イベント開催により地域の様々な活動に組み入れ、たくさんの参加者が集える活動をしています。

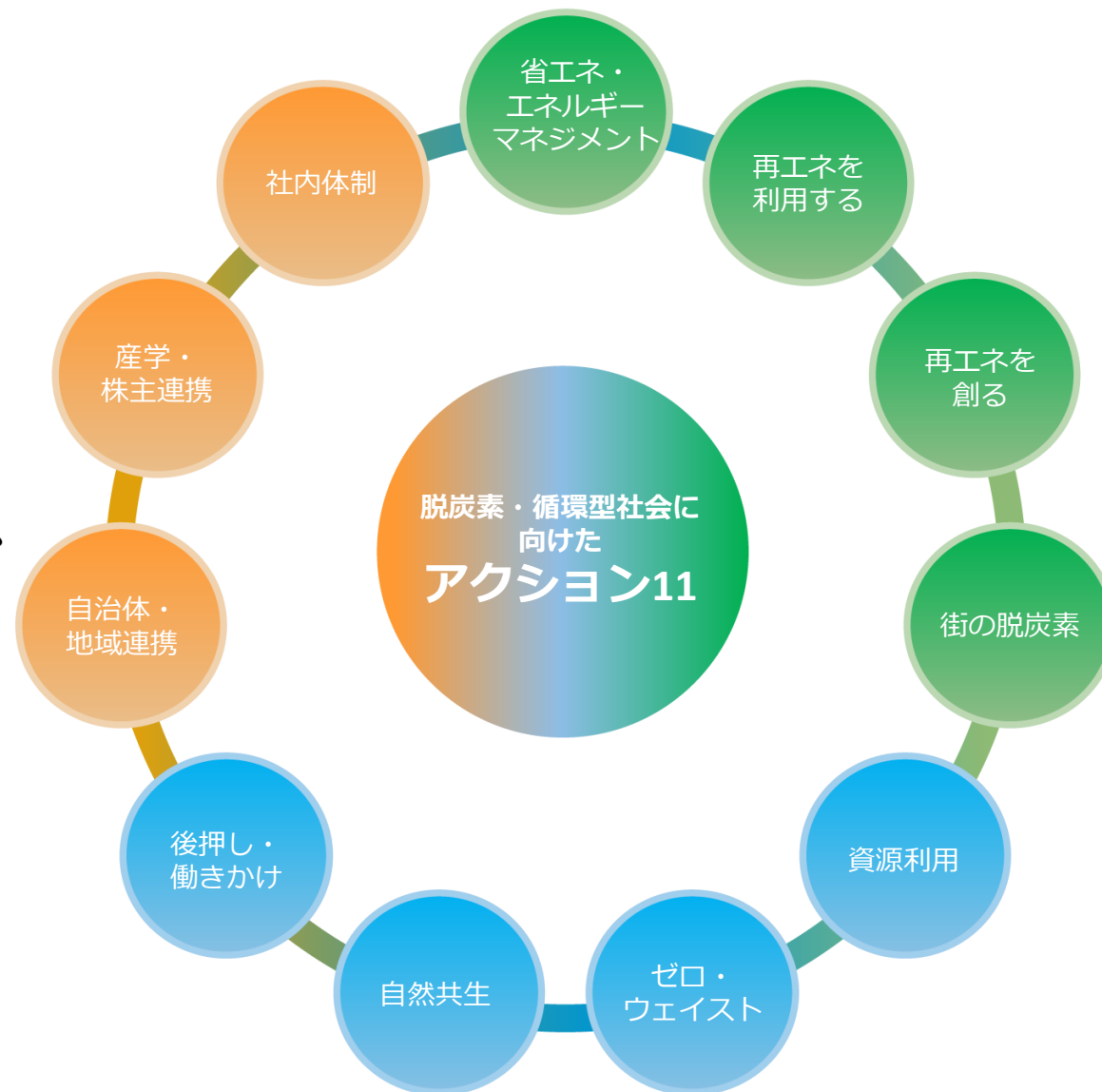
※1 「美しい時代へ みらいアクション」ニュースリリース <https://www.tokyu.co.jp/company/news/detail/58986.html>

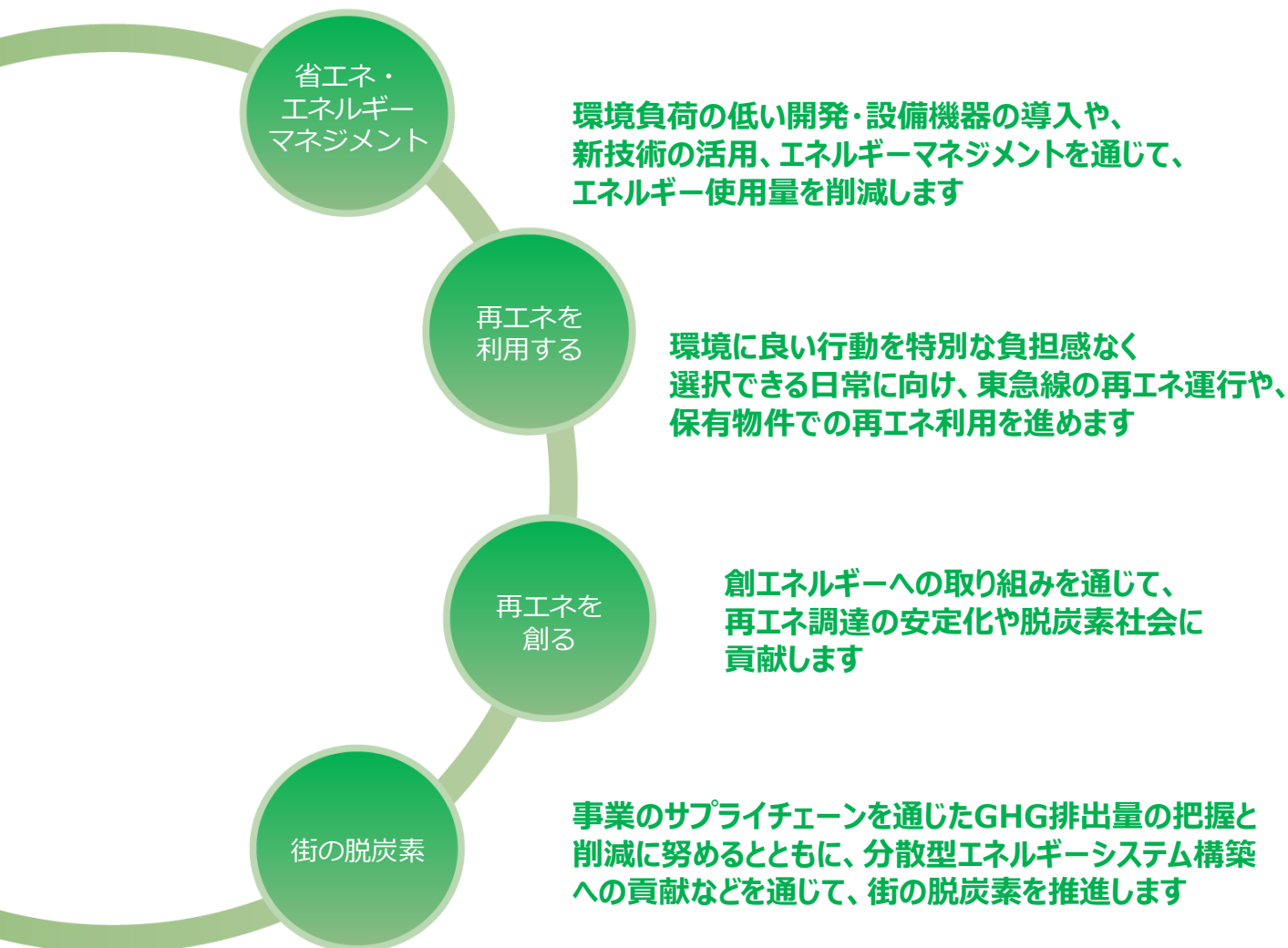
※2 東急線沿線を対象とした独自調査における「5つのアクションテーマのうち、3つ以上のアクションテーマにコミットする人の割合」

※3 輸送量あたりの二酸化炭素の排出量（旅客）2023年度 出典：国土交通省ホームページ ※4 参加者数のモニタリングと開示は2026年度より実施予定 ※5 『みど*リンク』アクション支援団体一例



脱炭素・循環型社会に向けて、
取り組み目標を達成していくために、
11のアクションを定めました



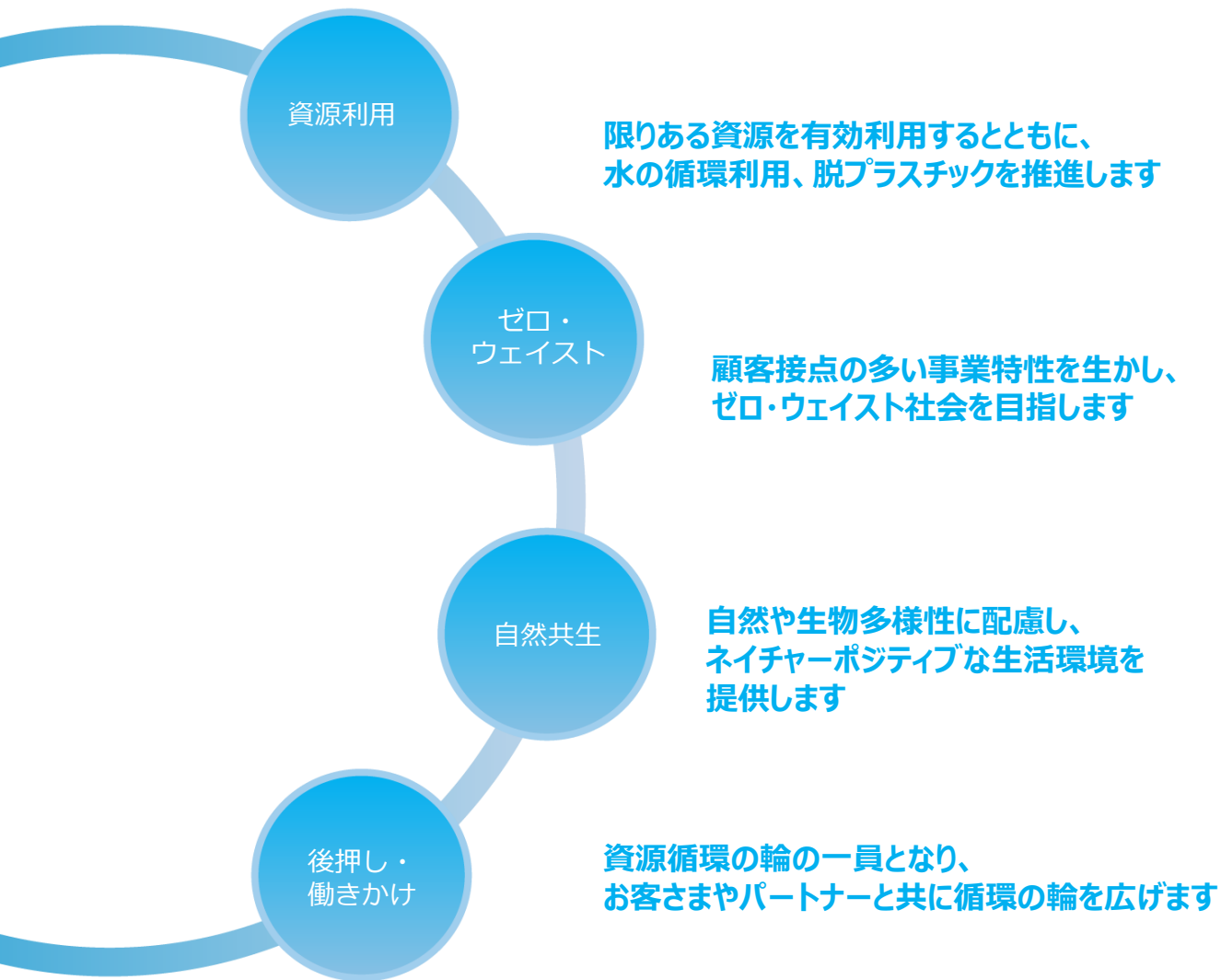
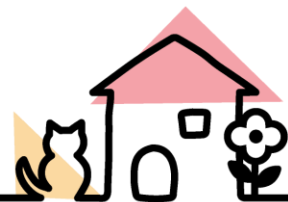


- 環境認証、車両更新、エネルギー・マネジメントシステム、物件間熱源連携、電化促進

- 東急線全線再エネ運行
 - 当社所有の新築物件は再エネ導入を基本仕様とし、既築物件は共用部・自社利用部の実質再エネ100%を継続※
 - 当社および当社連結会社での再エネ利用の促進
- ※ ホテル・住宅物件、当社がエネルギー管理権限を有しない一部物件を除く。テナント専用部を含む建物全体が対象。

- インフラファンドを通じた再エネ発電所の開発投資、自社施設の屋根や敷地を活用した太陽光発電設備の導入、自社需要向け再エネ発電所の拡大

- サプライチェーン協働、自治体連携、CO₂フリー交通、EV導入の促進
- 太陽光発電・蓄電池設置支援、街のレジリエンス強化・エネルギーの面的有効活用に向けた蓄電システム等の導入

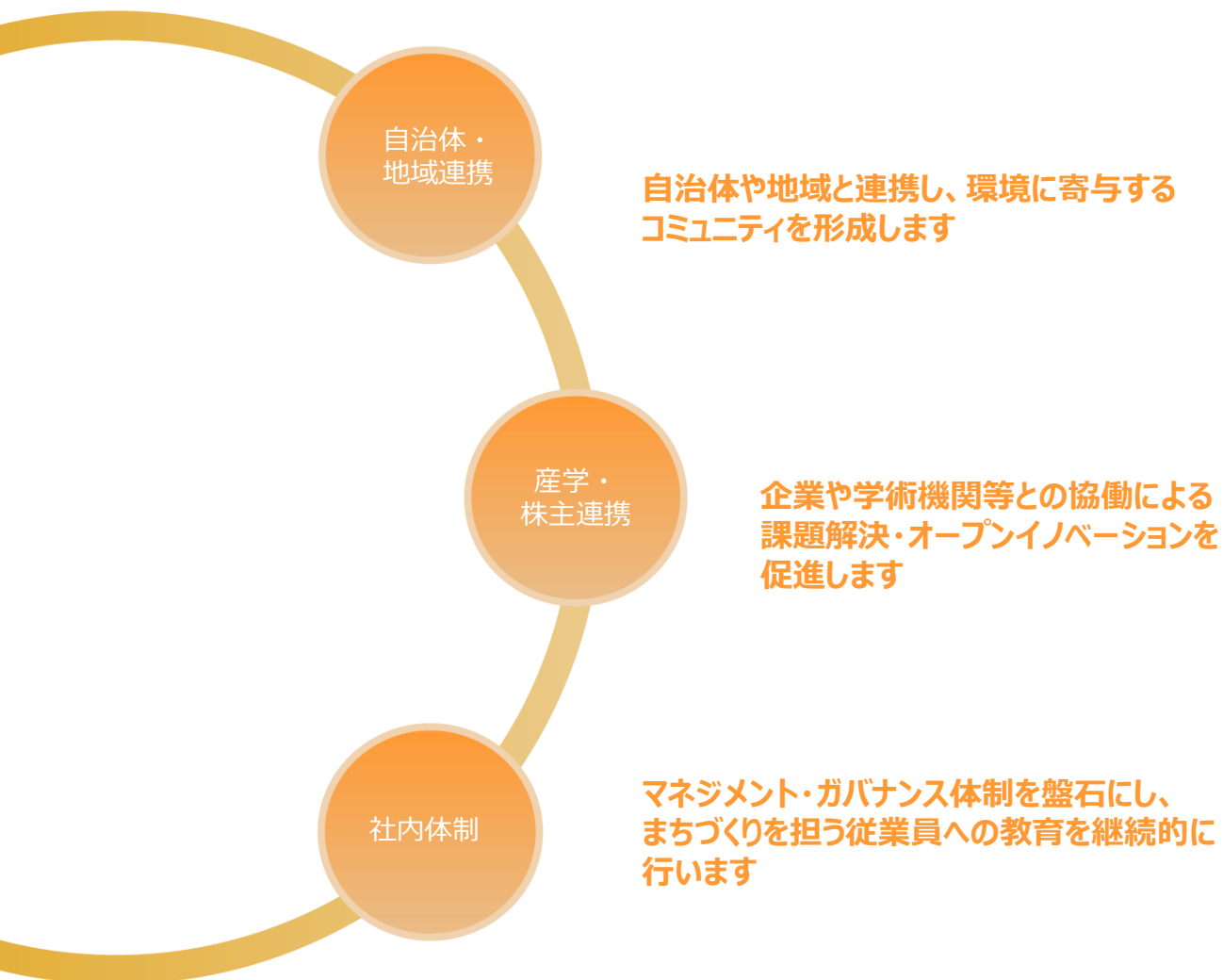
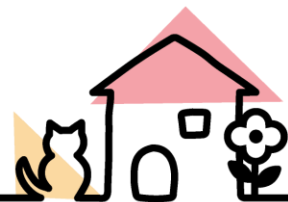


- 再生材・再生可能な資源の利用、再生材の研究開発、建物等の長寿命化、木材活用
- 雨水利用、新技術による中水活用、水循環への試験的取り組み
- 脱プラスチックに向けた代替製品の利用・リサイクル促進

- Reduce 過剰な生産・供給の見直し、フードロス削減
- Reuse 再利用の促進、シェアリングサービス、リノベーション、不用品循環プラットフォーム
- Recycle 廃棄物リサイクル、ペットボトルのケミカルリサイクル
- 廃棄物を低減する資源利用促進（有価物化）、廃棄物のエネルギー資源化

- 自然や生物多様性の保全、森林再生、グリーンインフラ、ブルーカーボンの取り組み検討
- 環境アセスメント、環境認証の取得、持続可能性に配慮した資材の調達・商品の販売

- 環境認証商品の取り扱い拡大、エシカル消費の促進
- 東急線によるGHG排出削減貢献量のモニタリングと開示
- 啓発活動、『みど＊リンク』アクション



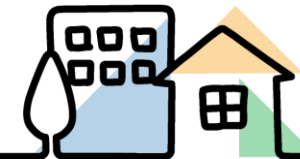
- nexus構想、次世代郊外まちづくり、渋谷エリアマネジメント協議会
- 環境こども教育、地域共助促進支援（アプリ等）、国内外の東急会における地域密着型活動
- 公益財団法人東急財団を通じた多摩川流域の環境に関する研究助成、環境活動支援、環境啓発活動

- 共同研究、実証実験、オープンイノベーション
- サステナビリティを推進する資金調達
ーサステナビリティボンド発行、サステナビリティ・リンク・ローンの活用
- ESG情報発信、株主・投資家対話

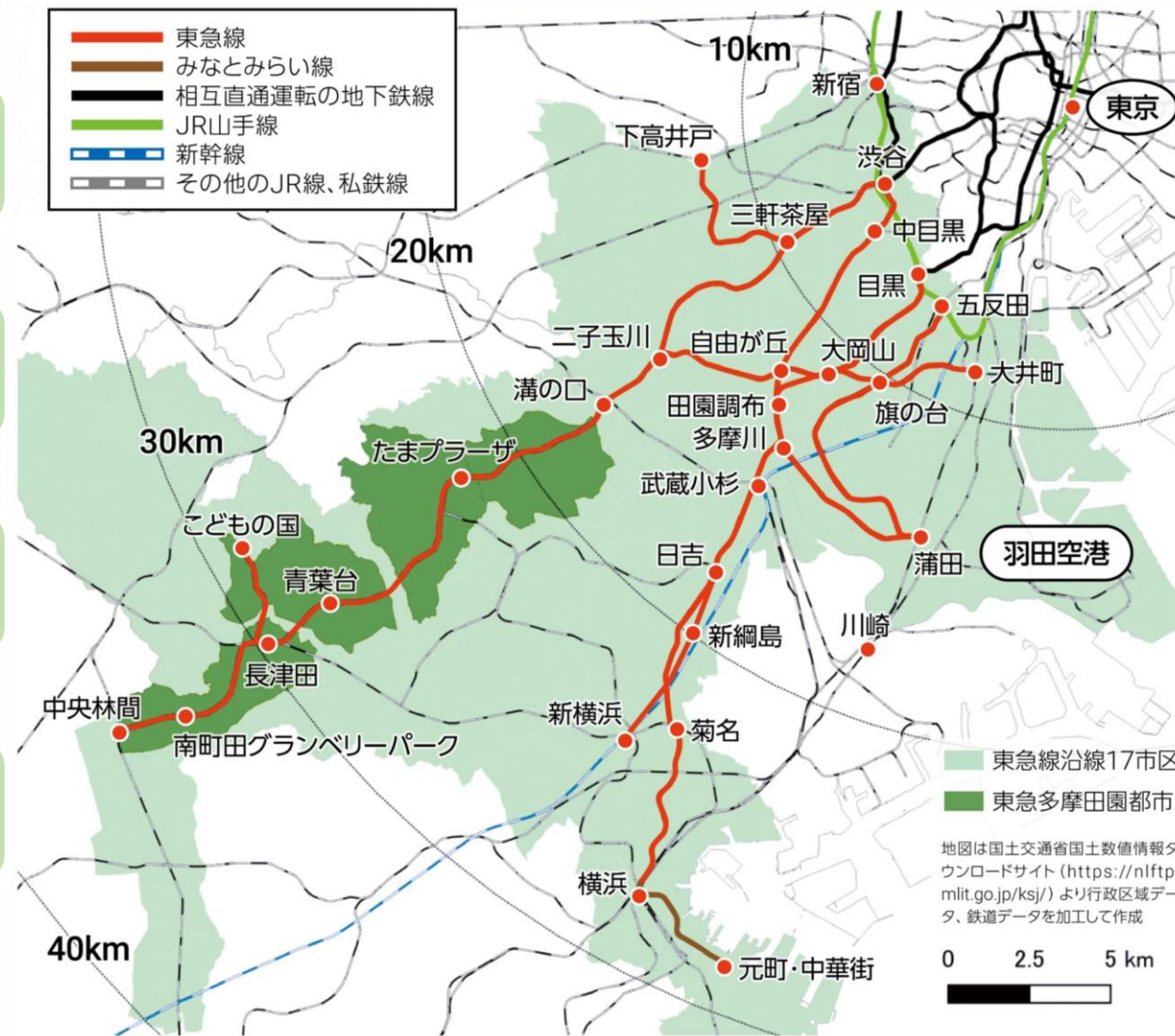
- 環境ビジョン、環境方針、環境戦略
- マネジメント組織体制、インターナルカーボンプライシング
- 従業員教育、表彰制度（東急グループ 環境・社会貢献賞）

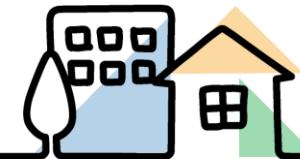
8

脱炭素・循環型社会に向けたアクション11について、
「まちづくり」における主な取り組み状況を紹介します。



- ## 8 東急グループ





1 渋谷



「渋谷アクシュ」
(ZEB Oriented認証(建物全体)、
ZEB Ready認証(オフィス部分)取得)



SHIBUYA QWSから生まれた
「渋谷肥料」プロジェクト

気候変動適応対策

- 集中豪雨時の雨水対策
(渋谷駅東口雨水貯留槽設置*、
防潮板等地下浸水対策)
- *独立行政法人都市再生機構とともに、渋谷駅
街区土地区画整理事業共同施工者として整備。

省エネ、自然エネルギーの有効活用

- 渋谷ヒカリエ及び駅での一体型自然換気、
渋谷駅の放射冷房、オフィスフロア夜間換気
- 環境認証取得の促進(CASBEE、ZEBや国際認証など)
- 大型物件の電力再エネ100%達成

エネルギーマネジメント

- 蓄熱システムを含むビル間熱源連携
- VPP*や新技術の導入検討

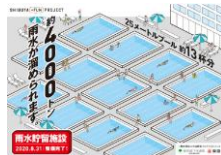
*Virtual Power Plant(仮想発電所)

オープンイノベーションの推進

- 東急アライアンスプラットフォーム*
- 共創施設「SHIBUYA QWS」
- イノベーション・エコシステム形成支援
- *渋谷を中心に沿線全体で取り組むオープンイノベーション推進プログラム

渋谷川再生・自然共生

- 官民連携のもと清流復活水を活用した「壁泉
(水景施設)」等により渋谷川を再生
- 渋谷川沿いでのビオトープづくり
- 広場の整備や壁面緑化・屋上緑化による緑地づくり



2 二子玉川



*LEED (Leadership in Energy and Environmental Design)
米国グリーンビルディング協会が所管する環境性能評価指標。
エネルギー効率にすぐれ、持続可能な建築物を普及することを目的とする。



エリアマネジメント

- 地域と一体となって長期視点で進める官民連携のまちづくり
- 多摩川と水辺環境の保全および安全利用啓発につながる活動



在来魚の産卵床整備



子どもたちの生き物観察拠点の清掃



橋脚清掃(落書き消しと壁面の活用)

二子玉川ライズ(自然豊かな 環境と生態系の保全)

- タワーオフィス「LEED* NC
新築部門」ゴールド認証
- 「LEED ND(まちづくり部門)」
ゴールド認証(世界初)
- 生物多様性評価「JHEP認証」
最高ランクAAA
- 世田谷区保有発電所による再エネ利用

タウンマネジメント*

- 地域住民、就業者、事業者間
のつながりを醸成するコミュニティ形成

*二子玉川ライズを構成する5つの街区の管理主体者によ
って「二子玉川ライズ協議会」を組織し、タウンメン
ジメント活動を実施。東急(株)は全体管理部分の管理者として、
二子玉川ライズ協議会より選任。



3 多摩田園都市

次世代郊外まちづくり

- 横浜市と包括協定締結（2012年～）
- 産学公民連携により郊外住宅地における既存のまちの再生を推進
- 太陽光発電設備・モビリティ充電器、シェアサイクル等を備えたモビリティステーション*を開始
*横浜市、東急バス(株)と共同の取り組み。



【たまプラーザ みらいモビリティステーション】

青葉地区からはじまるnexus構想

- 「農と食」「資源循環」「エネルギー」「駅遠エリアのMaaS」などの実証実験や事業化



【nexusチャレンジパーク】
シェアリング型のコミュニティファーム、
会員創発の清掃活動、common box設置。



【ペロブスカイト太陽電池の実証】
桐蔭学園、東急、東急電鉄が教育・エネルギー
をテーマにした相互連携に関する協定を締結。
駅での実証実験等を実施。

建物の利活用を通じた資源循環

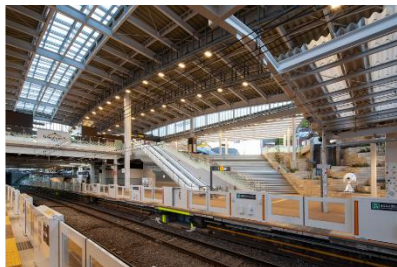
- 住まいと暮らしのコンシェルジュと共同で、
行政・地域と連携した空き家相談
- 建物リノベーション



4 南町田グランベリーパーク

駅・商業施設・公園が一体となった新しいまち

- 第31回「地球環境大賞」で大賞（グランプリ）受賞
- 駅舎「LEED NC（新築部門）」ゴールド認証（駅舎国内初）
- 約15haの区域申請エリア「LEED ND（まちづくり部門）」ゴールド認証



【南町田グランベリーパーク駅】
旅客トイレ洗浄水への雨水再利用や大容量の雨
水貯留槽設置による雨水排水計画、
LED照明導入、建設時の廃材リサイクル率約
70%達成等が評価された。



【グリーンインフラを生かしたエリア全体のランドスケープデザイン】
コンクリート等の人工物ではなく、石や土、
緑などの自然環境が持つ力や機能を
生かし、生活を支えるインフラとして活用。

住まいと街の長期サイクル提案

- 定期借地権付の環境配慮型集合住宅（マンション）分譲



【ドレッセタワー南町田グランベリーパーク】
2024年1月に竣工した駅直結集合住宅。再エネ電気100%導入の
他、太陽光追尾採光システム採用やEV急速充電機、カーシェア
リングを備える等カーボンニュートラルな暮らしを提案。

自治体との連携強化

- 町田市と環境協定締結

地球温暖化対策や気候変動影響への適応、生物多様性や廃棄物の削減と有効利用、環境教育・学習の推進に関する協定を締結し、取り組みを進める。



5 街をつなぐ駅・交通を中心とした取り組み

低環境負荷からCO₂フリーな公共交通へ

- 東急線全線・全駅の使用電力100%再エネ化*
*CO₂排出量が実質的にゼロとなる再生可能エネルギー由来の電力
- コーポレートPPAによる長期再エネ電源の獲得の推進

利用促進により、更なる街の脱炭素を推進

新技術活用等による省エネ・エネルギーマネジメント

- 車両更新、機器更新時の省エネ化、駅照明LED化
- 駅空調設備等による高効率エネルギー マネジメント検討
- 余剰回生電力*の駅での活用
*列車がブレーキをかけたときに生じる電力で、他の列車の加速に利用
- 事業用蓄電システムの導入



元住吉駅太陽光パネル



リニューアル後の戸越銀座駅
多摩地域生育・生産の「多摩産材」を活用

木材活用によるCO₂削減・CO₂固定化

- 木材を活用したホーム上屋改修
- 旧駅舎の古材（えきもく）の再活用
- えきもくを活用した地域イベント等によるコミュニティ形成

化石燃料の電化や代替エネルギー促進

- 産学連携による混合バイオ燃料の普及事業
- 営業所における電力の100%再エネ化
- 世田谷区所有の太陽光発電所の電気を利用したバス停留所のCO₂フリー化（再エネの地産地消）



バイオ燃料バスお披露目会の様子



SDGsトレイン『美しい時代へ』号



旧型車両よりも使用電力量を50%削減した2020系車両

駅・交通の特性を生かしたゼロ・ウェイスト促進

- お忘れ物のリユースによる廃棄物削減
- 駅での空プラスチック容器の回収
- 駅でのフードロスに配慮した自販機の設置
- 廃棄制服のガス化ケミカルリサイクル（実証中）
- 使用済み鉄道ケーブルのリサイクル（研究開発中）

⇒ 企業連携を加速し、
取り組みの輪を広げる

駒沢大学駅・長原駅に、賞味期限内でありながらやむを得ず廃棄対象となったパンを販売する自販機を設置し、食品ロスを削減



ブックオフと連携し、保管期間経過後のお忘れ物をリユース

鷺沼駅・南町田グランベリーパーク駅にユニリーバ製品のプラスチック容器回収ボックスを設置し、回収したプラスチックは資源循環

環境PR・利用促進

- 公共交通利用促進PR
- お客さま参加型環境イベントの実施
- LINEやフーが運営する木や森に特化した新メディア「サストモの森」への参画



環境ワークショップの様子



再エネ運行PRポスター

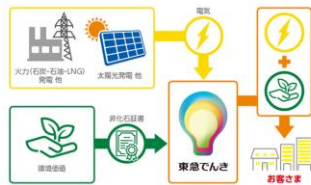


6 沿線・沿線外（国内）

グリーンエネルギー領域の取り組み

調達電力の内製化（自産自消）とカーボンニュートラルに向けた、地域環境に配慮した“創エネ”と“蓄エネ”を推進

- 太陽光発電所の開発と再生エネルギー電力の供給
- 空港事業における脱炭素化施策の推進



沿線のカーボンニュートラルの促進

- 東急パワーサプライ東急線沿線家庭向け電気再エネ100%化を推進
- EVユーザー向け支援メニュー
- 住宅向け太陽光発電蓄電池の設置サービス
- ZEH-M等の普及



低環境負荷のライフスタイル提案

- 職住遊近接のまちづくり、ウォーカブルなまちづくり
- プラスチック代替製品の活用・お客さまへの提案
- 食品ロスの削減・エシカル消費の喚起



環境配慮商品の
コーナー化



木材ストロー・バイオマス
ストロー利用



食品ロス削減の啓
発活動



需要予測システムに
よる適正な在庫管理



グリーンカード
・グリーンコイン



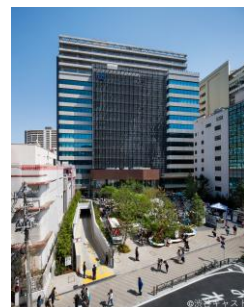
電子レシート
システム導入

当社所有物件再エネ100%達成

- 2025年度までに当社所有賃貸不動産*1の電力を100%*2 実質再生可能エネルギー由来の電力へ切り替える目標を 1年前倒して達成

*1売却または取壊し予定物件、ホテル・住宅物件、当社がエネルギー管理権限を有しない一部物件を除く。

*2テナント専用部を含む建物全体が対象。



渋谷キャスト



東急キャピタルタワー

地域共助アプリ「common」提供

- 「投稿機能」「譲渡機能」「相談機能」「スポット機能」など、街の情報共有や、モノの循環を通じた住民同士のコミュニケーションを支えるアプリを提供
- 2025年6月世田谷区と協定を締結、区民のまちづくりへの参加と協働の促進及びコミュニティの活性化を推進



世田谷区との協定リリース



不用品の置き渡しBOX
「common box」

参加型イベントの開催・協賛

- 東急モルズデベロップメントでは、サステナブルな活動の推進や商業施設においてお客さま参加型のイベントを多数開催
- 一般社団法人SWITCHが渋谷区内の小学校や企業と共創する合同環境文化祭「GX SHIBUYA フェス」に参加、体験的に環境を学ぶ機会を提供



たまプラーザ テラス
イベントポスター



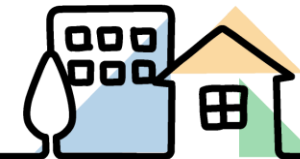
青葉台東急スクエアイベント
実施の様子

Tokyu Malls Development
Sustainability Action

「東急モルズデベロップメント
Sustainability Action」ロゴ



「GX SHIBUYA フェス」
イメージ



7 海外

ベトナム ビンズン新都市

- 空中庭園や壁面緑化、緑豊かな住環境（分譲住宅事業）
- モーダルシフト促進
バイクや自動車から、低環境負荷のCNG（圧縮天然ガス）を燃料とする路線バスなど、公共交通機関への移行を促進することで、交通の脱炭素化を目指す
- コンポスト・アクアポニックス等の施設内導入（商業）
- 地域一体となった街の清掃活動



ビンズン新都市プロジェクト全景



路線バス「KAZE SHUTTLE」



ヤンチェップ地区全景



オフィス・研究・教育複合施設「Y.hub」

西豪州 ヤンチェップ地区

- 「Clean Green Sustainable City*」の実現に向けた街づくり
*農業、教育、健康・幸福、文化、地域生活関連、クリーンエナジーの6つの分野に注目。相互連携による相乗効果で地域社会や環境および持続可能な好循環をもたらす開発を目指す。
- イノベーション・ビジネス創出施設「Y・hub」
研究と教育、ビジネスを軸とした雇用創出により、地域の自立・発展と環境負荷軽減を目指す

8 東急グループ

東急グループ 環境・社会貢献表彰制度

- 環境や社会に貢献する活動を東急グループ全体で推進するため、表彰制度「東急グループ 環境・社会貢献賞」を継続的に実施
<https://tokyugroup.jp/csr/award>



第7回授賞式の様子

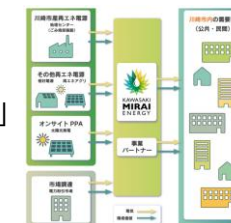
東急グループ 環境・社会貢献賞受賞案件一例

- 旧制服の焼却処分ゼロを目指して（東急電鉄）
東急電鉄の制服リニューアルに伴い発生した約52tの旧制服を焼却処分ゼロを目指し、アップサイクル、リユースなどにより、焼却処分を行った場合に発生する約140tのCO₂排出を削減予定。



旧制服から作製したトートバック

- 川崎市内の再エネ地産地消と普及・啓発活動
川崎市や NTT アノードエナジー株式会社、地域の金融機関との共同出資により地域新電力会社「川崎未来エナジー株式会社」を設立。バイオマス発電によって生み出される再エネ電力を、公共施設・民間施設へ供給することにより再エネ電力の地産地消を促進。



再エネ地産地消のスキーム



東急グループでの主な取り組み

東急不動産ホールディングス株式会社



GROUP VISION2030



環境経営の方針



東急不動産の再生可能エネルギー事業
[リエネ]

東急建設株式会社



長期経営計画“To zero, from zero”



ネット・ゼロエネルギービルを積極的に提案



建設現場における低炭素燃料
(GTLやバイオ燃料)の導入



蓄電所事業の更なる拡大

世紀東急工業株式会社



Integrated Report 2024



路面の温度上昇を抑制する舗装



リサイクル材料を活用した商品開発



環境への主な取り組み・成果

主な受賞履歴（取り組みの成果）

1989年	10月	東急多摩田園都市が、(財)都市緑化基金「緑の都市賞」で内閣総理大臣賞を受賞
2001年	10月	「苗木のプレゼント」の実績に対し、国土交通大臣から「都市緑化功労者賞」受賞
2003年	4月	「犬蔵土地区画整理事業」がフジサンケイグループ主催の「第12回地球環境大賞」で環境大臣賞を受賞
2004年	6月	関東運輸局「環境保全功労者関東運輸局長表彰」受賞
2006年	12月	国土交通省「交通関係環境保全優良事業者等大臣表彰」受賞
2008年	7月	東急病院が「東京都環境賞」受賞
2009年	4月	「環境に配慮した新渋谷駅等」がフジサンケイグループ主催の「第18回地球環境大賞」で国土交通大臣賞を受賞
	11月	クールビズトレインが評価され、クールビズ推進協議会より【TEAM COOLBIZ部門】を受賞
2010年	10月	田園都市線たまプラーザ駅が、鉄道建築協会「最優秀協会賞」を受賞
2011年	2月	東急ウェリナ大岡山が環境省主催の「省エネ・照明デザインアワード2010」のその他施設部門において「グランプリ」を受賞
2012年	2月	二子玉川ライズ・ショッピングセンターが、環境省主催の「省エネ・照明デザインアワード2011」の商業・宿泊施設部門において「グランプリ」を受賞
2013年	1月	渋谷ヒカリエ「ShinQs」が「省エネ・照明デザインアワード2012」の商業・宿泊施設部門において「グランプリ」を受賞
2016年	4月	「二子玉川ライズ」がフジサンケイグループ主催の「第25回地球環境大賞」で「地球環境大賞（グランプリ）」を受賞
2017年	3月	池上線戸越銀座駅が、農林水産省等主催の「第20回木材活用コンクール」で最優秀賞を受賞
2020年	2月	「世田谷線CO ₂ 排出ゼロへの取組」が、EST普及促進委員会と公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団が主催する「第11回EST交通環境大賞」において、環境にやさしい交通の優れた取り組みとして「環境大臣賞」を受賞
	10月	「南町田グランベリーパーク」が「第40回緑の都市賞」国土交通大臣賞、「第8回プラチナ大賞」新しい時代のまちづくり賞をそれぞれ受賞
	11月	東急ホテルズの川崎キングスカイフロント東急REIホテルでの「再生可能エネルギー100%！日本初の『CO ₂ フリー電力ホテル』」の取り組みが、川崎市の主催する「第9回スマートライフスタイル大賞」において最優秀賞を受賞
2021年	3月	東急線のSDGsトレイン2020（持続可能な社会の実現に向けた取組を紹介する・再エネ100%にて運行）「美しい時代へ号」が、公益社団法人東京屋外広告協会の主催する「第12回東京屋外広告コンクール」第4部門（車体利用広告）において東京都知事賞を受賞
	12月	南町田グランベリーパークが、公益社団法人 土木学会景観・デザイン委員会の主催する「土木学会デザイン賞2021」において優秀賞を受賞
2022年	2月	多摩産材を活用した東急池上線旗の台駅が、東京都の主催する「ウッドシティTOKYOモデル建築賞」において優秀賞を受賞
2023年	6月	「南町田グランベリーパーク」がフジサンケイグループ主催の「第31回地球環境大賞」で「地球環境大賞（グランプリ）」を受賞
	12月	東急電鉄における鉄軌道全路線の再生可能エネルギー由来の電力100%運行が、環境省主催「気候変動アクション環境大臣表彰」において、先進導入・積極実践部門の緩和分野で「気候変動アクション環境大臣表彰」を受賞